

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	高次脳機能障害 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期 月曜1限	教室名	第4校舎401
担 当 教 員	丸山 めぐみ	実務経験とその関連資格	友愛会病院で言語聴覚士として勤務し、成人(脳疾患等)の言語聴覚療法に携わる。			
《授業科目における学習内容》						
高次脳機能障害の概念を理解し、どのような障害があるのかを学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト(筆記試験)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書 : ①標準言語聴覚学 高次脳機能障害学第4版(白テキスト) パワーポイントのスライド配布資料						
《授業外における学習方法》						
予習・復習ともに①の該当箇所をよく読み込む。随時確認問題を実施する。						
《履修に当たっての留意点》						
言語聴覚士は、多様な高次脳機能障害の患者さんと関わっている。 各専門用語を整理して正しく使用し、高次脳機能障害について理解を深めることが必要である。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能障害とは何かを説明できる。	① 配布資料、パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。	
		各コマにおける授業予定	高次脳機能障害の基本概念/主要症状と背景症状/脳画像			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能の基本となる専門用語を説明できる。 高次脳機能障害のリハビリテーションの流れを理解できる。	① 配布資料、パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。	
		各コマにおける授業予定	二重乖離の原理/ボトムアップ処理とトップダウン処理 高次脳機能障害のリハビリテーションの流れ/ 各病期のリハビリテーションの特徴			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	知覚と認知の違いを述べることができる。	① 配布資料、パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。	
		各コマにおける授業予定	視知覚認知障害(皮質盲、大脳性色覚障害、幻視と錯視)、視覚認知障害(視覚性失認)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な視覚性失認の特徴および視覚性失認と紛らわしい障害について、説明できる。	① 配布資料、パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。	
		各コマにおける授業予定	視覚性失語/相貌失認/色彩失認			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	物体失認以外の視覚性失認について述べることができる。	① 配布資料 パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。	
		各コマにおける授業予定	相貌失認、色彩失名辞			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 視覚性認知障害のリハビリテーションの方法を説明できる。	① 配布資料 パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。
	各コマにおける授業予定	皮質盲、大脳性色覚障害、視覚性失認、相貌失認、色彩失認のリハビリテーション		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 聴覚認知障害・聴覚性失認の特徴とリハビリテーションの方法を説明できる。	① 配布資料 パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。
	各コマにおける授業予定	皮質聾/純粋語聾/環境音失認/受容性失音楽		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 触覚性失認・多様式失認の特徴とリハビリテーションの方法を説明できる。	① 配布資料 パソコン プロジェクター	①の該当箇所をよく読む。
	各コマにおける授業予定	触覚性失認/多様式失認		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標		
	各コマにおける授業予定			